

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 沖縄返還交渉Ⅱ-1（対内）

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2020-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/45929

東洋局長の針總理報告 (九一八)

簿

(回電番号) 外務省電信案 (分類)

機密表示 (極秘・密の朱印) 特秘	符号表示 暗 略 平 暗	※ 総第 5712 号
	※ 第 27 号	※ 昭和 44 年 9 月 18 日 時 20 分 37
	大至急 至急 普通・LTF	※ 發電係 小村文

(※印欄内は電信課記入)

大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 米局長 米局長 孔孝一	主管局部課(室)名 米局長 起案 昭和 44 年 9 月 18 日 起案者 電話番号
---	--	--

協議先
米局長

在 ~~面連~~ **大使** 臨時代理大使 **経塚** 大臣 務
 総領事 代理

電 報 在 **米下院** **大使** 臨時代理大使
 総領事 代理

件名
沖縄交渉 処理報告

愛知大臣、東仲アメリカ局長上

18日午前 総理に報告した (古原長官

副長官同席)。先が二王ノ行キ機上ニ

ニ御覽戴ニ報告を御一流 軽

ト太上。(1)全体の印象として 米側も 11月

外務省に送付された。I-2 取送

(昭和四二・七一 改正)

GB-1

18 156
390

日米会談にて満足すべき程度に達せんと
 する交渉の観取上此点(上)米側内部
 としは國務長官が自身納得し得る腹
 算を~~持~~^して^上国防当局と最終的交渉會
 合を遂げて大法院の決裁に付て行く
 段階と見られること。~~(下) 前記は裁~~
~~断協定と見られるとの問題を共同声明~~
~~の中が取柄と云ふことと米側と~~
~~の問題が~~ (1) 米側は前記の問題を
 非常に重視して此を共同声
 明の中へ取りと云ふことと深く前進す
 ることと云ふこと、~~等~~⁽¹⁾~~に~~~~補~~~~足~~~~演~~
~~説~~要するに大臣との会談の善を認め
 るに伴い、國務長官自身も問題を~~理解~~
 の理解を深め双方の立場の間に高

柳吉の幅はあるか 其れをどの国で
子とあるかか 今情の問題であること、尋
12つ12補呈渡所、在。以上は好し
総理より (1) 日米友好のいかゆる一枚表
の大学所の上には通達を實現すること並び
に (2) 共同声所を処理するに云う事別に
是補はないか、又 (3) 日米平和の問題は
共同声所の表現の問題を処理し得るか
との質問あり 本官より (1) ^は ~~は~~ 是よりなけ
ればと、子で来れるわけがない (2) ^は 先方
もその考である (3) ^は その通り解決し得る
と考へる旨 復答しおいた。以上の他
特に御指示はなく、本官所向れ大屋
紳紳等の上巻しく報告あるべきも事
務書に於ては 11月10日米を日控し

更に準備を進め、土曜日に開く。

なお、別途同日午後大蔵大臣に對し

通達に伴い、既成の借付問題に對する

ワシントンにおける事務シグナルの活会の

要旨を報告し置いた。

一般情報 215号 (9月18日付)

5. アメリカ局長記者会見 (18日)

(局長) 今朝9時半から30分間、言っていて総理にアイチ大臣と米側との会談について報告した。

ワシントンでの話し合いについては大臣が既に語られているので補足することはない。今回の会談の印象は全体として、11月のサトウ訪米までに結論を出そうとの気持えがある。9月と回を重ねることにより厚になつてきたことである。あと2ヶ月でまとめようとの気運があるが、ただ双方の考えに相当はばがあるので、このはばをどう落すかという点については、手離してらつ間というわけにはいかない。

米側のすすめ方は、今回、アイチ・ロジャーズ間で有益な話し合いがあつたのでそれを基礎に、米政府全体としての考えをこれからまとめて大統領にもつていこうというところだ。

(質問に答えて) これ以上早くかたづくことは考えられないという意味で消極的にいつてきあまゝ願調というところだろう。

(問) アイチ・ロジャーズ会談で1回目から2回目へ、飛やくがあつたといわれているが。

(局長) 進歩はあつたといえる。

(問) 大統領はこの問題の細部にもタッチしているのか。

(局長) 個々の具体的問題でロジャーズが大統領と細かくつめたという段階ではなからう。

(問) 交渉でのしきり点は、共同声明の表現のねりあげか。

(局長) 表現というより実質の問題である。例えば、核の問題など大変なことである。

(問) アイチ大臣が会談で「えんぴつをもつて」といわれたが、コミュニケに何か書いたのか。

(局長) とにかいくちゆう象論だけの段階でないのは事実である。

(問) 2回目の会談では、核とベトナムとではどちらが重点になったか。

(局長) この二つをぶつける話ではないが核は急に結論に近づくものでもないので、どちらかといえばベトナムの方だろう。

(問) 核をのぞけば実質的に解決されているか。

(局長) 気分はだんだんそうなつてきているが、日本にとつても重大な問題であり、核を除けば解決オキというのはいいすぎだろう。

(問) ベトナムは ~~ENDING~~ *Pending* になるといふことか。

(局長) 予約は困るが、米側も返かんしたよく日から何もできなくてほこまるだろう。

(問) ベトナムについては、返かん時に相談するのか。

(局長) 今、ニダソンの持っている問題は、返かんの時に相談しますということではすまないものだろう。

(問) 共同声明はベトナムについてふれざるを得ないのではないか。

(局長) わが方にしてふればただ返かんしますというのが最もよい。しかし先方にとつてはベトナムをオキナワの返かんと結びつけることが必要だろう。

(問) 米は72年にベトナムは終つていると考えているか。

(局長) 72年どころか、日も早く終ることを願つてはいるが、72年までしかたないというような弱気ではない。先方もアメリカ国内をまとめつつオキナワの交渉にあたつてはいる。